



里山通信

「蒲沢 (かばさわ)」


第44号

平成20年12月 1日発行

発行責任者

里山ねっと赤坂

代表 和田 伸太郎

 11月30日(日)、里山講演会を開催しました。講師は、赤坂2丁目にお住まいの東北福祉大で考古学を研究されている梶原先生、演題は、「赤坂ニュータウンには縄文人が住んでいた」。当日は、51名(内、小学生6名)もの方が参加されました。ニュータウンを造成中に出土した縄文前期の多数の石器や土器を直に見せていただきながら、2時間にわたって大変興味深いお話を聞かせていただきました。また、縄文式土器の縄目の文様がどのようにつけられたものか、さらに、

実際に石を砕いて石器が作られる様子もを見せていただきました。縄文人たちの集落があったというのは、この地が、山の幸、川の幸に恵まれた豊かな大地だったということです。そして彼らの作る石器の原石(頁岩)は、遠く山を隔てて山形方面から運ばれてきたものだそうです(何らかの交易があった事が推測されます)。長い間地下に眠っていた縄文人たちの生活ぶりが、宅地造成を機に再び私たちの知るところとなり、その同じ地に今、私たちが住んでいると考えると夢が広がりますね。



かばさわやま
蒲沢山、今昔(いまむかし)

『赤坂ニュータウンには、
縄文人が住んでいた』



(縄文式住居跡)

